

# 美しい森お薦め国有林

## 上川浮島風景林

上川中部森林管理署



上空から見た上川浮島風景林

### 【概要】

上川浮島風景林は、北海道北部の国道273号線沿いで、道北地方と道東地方の接点にある「浮島湿原」とその周辺部からなる風景林です。「浮島湿原」は標高870mの溶岩台地に発達した山地高層湿原で、北東から南西方向に約700m、北西から南東方向に約500mの「ハ」の字形に広がっています。面積は約22ha、周囲は約3kmあり、大小70あまりの沼が点在しています。沼の深さは「東ノ沼」の約2.5mがもっとも深いとされています。

### 【湿原の形成】

湿原の形成は、約2,000〜2,500年前で、斜面が緩やかで標高が高いことが影響し、植物が秋に枯れ落ちてもほとんど腐ることなく枯れ残って厚い泥炭の層になり、その上を水が流れ下るときに運ばれた種子が緩やかなところに滞り成長することを繰り返して、川の水がせき止められたるまでになり、沼ができたものです。そのような生い立ちから近くにある沼でも水面の高さがそれぞれ違うという不思議な現象が現れています。



沼に浮かぶ「浮島」

### 【名称の由来】

湿原にある沼の中には、日本でも数少ない風に吹かれて移動する貴重な「浮島」が存在しています。それが名称の由来となっています。

### 【楽しみ方】

浮島には大人3〜4人が乗っても沈まないものもあります。その成り立ちも、張り出した土手がちぎれたもの、湖底の泥炭層が浮き上がったもの、中島だっただけの根元が次第に細くなりちぎれたものですが、神代のむかし、男体大雪山の精と女体天塩岳の精が、悲恋に泣いて姿見の沼を作ったという伝説もあるようです。



好天時の水鏡

### 【楽しみ方】

#### ● 散策

湿原内には全長1,600mの木道が張り巡らされており、傾斜もないことから比較的歩きやすく、ゆっくり歩いても1時間程度で散策できます。

#### ● 動植物

湿原部にはエゾヒツジ、ササなどの水生植物、モウゼングルマなどの高山植物が

### 【アクセス】

生育し、6月上旬から8月下旬まで季節ごとに咲く花々を探勝できます。湿原の周辺部はアカエゾマツを主とする亜寒帯林で開けた場所が多く、野鳥などの動植物の観察も容易であり、豊かな自然が織りなす特異な景観が楽しめます。また、水鳥の生息には十分な広さではありませんが、広大な大雪山系には、野鳥が数多く生息しています。貴重な自然、その原始性を保つため、くれぐれも木道からは逸脱せずにお楽しみいただきますようお願いいたします。

#### ● 公共交通機関の場合

・新千歳空港駅→札幌駅（JR千歳線 45分）→旭川駅（JR函館本線 90分）→上川駅（JR石北本線 65分）

#### ● 車の場合

・旭川駅前→道央自動車道旭川鷹栖IC→比布JCT→旭川紋別自動車道浮島IC→国道273号→上川町道（未舗装路）（上川町道は冬・季節間通行止・例年6月上旬から9月下旬まで通行可）→上川浮島風景林駐車場（30台 無料）（75km 80分）

・駐車場から歩道1,600m（約30分）で湿原内木道へ